

( 出囃子が流れる )

A 「こんにちわー。」

B 「どもー。」

A 「いやー、すごかったですねー。」

B 「ほんまにねー。すごかったですなー。」

A 「きみ、なにがすごかったかわかってるんかいな。」

B 「さー。」

A 「ほら、あれやがな。」

B 「はてね。」

A 「なんや、わかってないんかいな。オリンピックやがな。」

B 「わかってるがな。せやからそう言うてるやんか。」

A 「きみ、わかってないやんか。さいぜんから、さー？、はてね？て言うてたやんか。」

B 「違うがな。卓球の福原愛ちゃんの掛け声、『サーッ！』に『アテネ』て言うてるんやんか。」

A 「ほんまかいな」

A 「・・・で、きみはアテネオリンピック、何が一番感動したん？」

B 「そうやねー。なんとと言ってもマラソンの世界最長記録に、ドーピングしてつかまらなかった水泳の北島選手やね。」

A 「きみの言うことは全然わけわからんな。なんやそのマラソンの世界最長記録っちゅうのは？」

B 「いや、マラソンコース作ったら、何十mか長いところにゴールを作ってしもうたっちゅうやつ。」

A 「それ、測り間違ってるだけやんか・・・で、もう一つは何やったかいな？」

B 「ああ、ドーピングしてつかまらなかった水泳の北島選手」

A 「きみ、そんなん言うたらどつかれるで。何がドーピングやねん。北島選手、ドーピングしてないやんか。」

B 「そやかて、『カンチョウしてキモチイイ』言うてバシャバシャやってたから、てっきりドーピングかと・・・」

A 「あほかいな。金メダル取ったから『超気持ちいい』って言うてはったんやがな。無茶苦茶やな。」

B 「なんや、そうかいな。」

B 「そういうきみは、何が一番感動したん？」

A 「そら、柔道や。」

B 「ちゃうやんか。」

A 「違って何がや。柔道やて言うてるんやんか。」

B 「せやから、銅は10違くて12銅やがな。」

A 「なにを訳のわからんこと言うてるんや。柔道や、『やわら』やんか」

B 「ああ、柔道かいな。そうならそう言わんと。」

A「最初からそう言うてるやんか。 谷に野村・・・」  
B「岡田に長嶋・・・」  
A「それは野球の監督やがな。あれ、感動的でしたな。『田村でも金、谷でも金』・・・」  
B「谷でも山でも野原でも・・・熊にまたがりお馬のけいこ・・・」  
A「なんで金太郎さんやねん。違う違う。『田村でも金、谷でも金』やがな。」  
B「『田村でも金、谷でも金、トニオでも金・・・』」  
A「そうそう・・・って、その『トニオでも金』っちゅうのはなんやねん。」  
B「いや、こうなったら、どれだけ苗字変えて金取れるか頑張ってもらわな。」  
A「で、何で『トニオ』やねん。」  
B「いや、僕ファンやから結婚してもらおかと・・・。」  
A「そんなもん、してもらえるかいな。結婚しはったばかりやがな。」  
B「次まであと4年あるし・・・」  
A「別れさそうと思うてるな、きみは。ガンバレニッポン！」  
B「柔道は『イッポン』やがな」  
A「きみとはやっとれんわ。」  
B「さいならー・・・」

( A , B 礼して退場 )